



中国四国

<http://www.mod.go.jp/rdb/chushi/>

第28号
平成27年4月発行

IWAKUNI日米交流合同コンサート



CONTENTS

- ① IWAKUNI日米交流合同コンサート
- ② 第24回防衛セミナー
- ③ 安心・安全共同パトロール
- ④ 和木町・周防大島町による安心・安全対策に係る要請書
- ⑤ 岩国基地に関する協議会(第10回)
- ⑥ 愛宕山用地における施設整備計画に伴う説明会
- ⑦ 自衛隊協力議員連盟に対する防衛講話
- ⑧ 防衛施設中央審議会委員岩国基地視察
- ⑨ 岩国飛行場藻場・干潟回復調査研究委員会
- ⑩ 在日米軍オリエンテーション・プログラム
- ⑪ 車座ふるさとトーク in 善通寺
- ⑫ 中国四国防衛施設地方審議会委員に感謝状を贈呈
- ⑬ 平成26年度中国四国防衛局初級係員フォロー研修
(編集雑記) 中国四国防衛局有志によるマラソン参加



IWAKUNI日米交流合同コンサート

中国四国防衛局は平成27年2月14日、シンフォニア岩国コンサートホールで「IWAKUNI日米交流合同コンサート」を開催しました。このコンサートは、米海兵隊岩国航空基地周辺の市民の方々と基地関係者の相互理解を深めるため実施したもので、今回が5回目のコンサートとなります。

主催者の芹澤清中国四国防衛局長は、「回数を重ねる毎に一步一步日米の絆の輪を広げている。合同練習などを通じて交流を深めている子供たちの様子に、日米の明るい将来を感じることができた。」と挨拶しました。



福田良彦岩国市長は「日米の生徒の皆さんで、親善と交流を図ることを目的にこのようなコンサートが開催されることは大変素晴らしいこと。同じ町に住む良き隣人・友人として、交流の輪を広げ、私たちは共存しているとの意識が自然に広がってほしい。一緒に練習することも、また一つの交流であり、その練習の成果を十分に披露し、素晴らしい演奏となることを期待する。」と祝辞を述べました。

岩国航空基地司令官のロバートV. ブシュー大佐は「本日のコンサートは、基地と周辺地域の皆さんとの文化交流の豊かな歴史の1ページであり、この生徒たちにとって今日のコンサートが将来に続く交流の重要な一歩となることを願っている。」と祝辞を述べました。



岩国市立岩国小学校とM. C. ペリー・ES合同
“ミッキーマウス マーチ”



周防大島町立安下庄小学校とM. C. ペリー・ES合同
“いのこ”



和木町立和木小学校とM. C. ペリー・ES合同
“ようかい体操第一”



※いのこ・・・いのこは旧暦十月の亥の日を祝う行事です。

十月が亥の月にあたり、猪は子を多く生むことから豊作につながり、農作物の収穫を感謝する行事となっています。

十月に、亥の子の神が田から家へ帰ってくることも、また、亥の子の日には、神が大根畑にいてもいわれています。だから、その日には大根畑に足をいれてはならないという伝えもあります。亥の子の神は、田畑の神、作物の神と信じられています。

安下庄の亥の子は、円石（えんし）という丸い石を綱でしばり、四方八方より引っ張って地面をつく（たたく）方法です。円石をつきながら、歌を歌い、地域の各家をまわっていくのです。

M. C. ペリー・ES
“Mary Poppins”



大竹一番太鼓ジュニア童夢とM. C. ペリー・HS合同
“粋”



岩国市立東中学校
“夕やけこやけ～夕日”



M. C. ペリー・HS
“World Drum Ensemble “Palo””



出演者全員の合同演奏 “Let It Go”



第24回防衛セミナー



(芹澤局長からの挨拶)



(第13旅団長 掛川陸将補の講演)

平成27年3月11日、中国四国防衛局は、山口県山口市のニューメディアプラザ山口において、「大規模災害に対する自衛隊の活動」をテーマに、第24回防衛セミナーを開催しました。山口市での開催は2回目となり、山口県及び山口市から後援を頂きました。当日は、約130名の方々が来場され、講演後には質疑応答が行われました。

第1部では、昨年8月、広島市豪雨災害において指揮官を務められた陸上自衛隊第13旅団長掛川陸将補から「平成26年広島市豪雨災害における自衛隊の活動」について講演しました。掛川旅団長は、「百万一心」との活動方針を掲げ、発災直後から行方不明者の捜索や入浴支援活動を実施し、隊員達の現地における活動状況について講演を行いました。

続いて第2部では、山口県総務部の矢敷危機管理監から「山口県の防災対策」について講演しました。矢敷危機管理監は、山口県では、防災への取り組みについて、ハード面・ソフト面の整備を積極的に進めており、地域防災力の向上には、自助・共助の促進が必要であり、自衛隊など関係機関との連携強化が重要との講演を行いました。

聴講された方々からは、「災害について考える良い機会だった」、「災害時に自衛隊の存在は大きな安心になる」、「自分が住んでいる市の防災対策についてよく分かった」、「災害派遣には自衛隊と自治体の連携が必要」などの感想や意見を頂きました。



(山口県 矢敷危機管理監)



(熱心に説明を聞く参加者)

安心・安全共同パトロール

中国四国防衛局は平成27年1月30日夜、岩国市、山口県、米海兵隊岩国航空基地、地元防犯関係者と共同で、岩国基地近くの川下地区と岩国駅周辺の繁華街の麻里布地区の防犯パトロールを3年半ぶりに行いました。

前日からの雨でパトロールの実施が危ぶまれましたが、当日の午後には天候が回復し、芹澤中国四国防衛局長、福田岩国市長、浅野山口県民局長、ブシェー岩国航空基地司令官ら約50名が参加しました。

このパトロールは、岩国市民のくらしやすい安心・安全なまちづくりを推進するため、市民と行政、さらに基地関係者とが共働して安心・安全意識の向上を図るのが狙いで、平成21年8月に始まりました。途中、米軍人の基地外への夜間外出規制などから実施を見合わせていましたが、昨年12月に規制の一部が緩和されたことなどから、パトロールの再開となったもので、今回が5回目となります。

出発に際し、福田市長は「自らの地域は自ら守るという連帯意識のもと、こうした活動を地道に続けていくことが大切」、芹澤局長は「日米の関係者が共働で防犯活動を行うことにより市民の皆さんの安心・安全への防犯意識が高められ、さらには、日米交流が一層推進される」と述べ、ブシェー基地司令官も「地元と基地と相互協力関係を表すパトロールは大切な行事である」とそれぞれ挨拶をしました。

一行は隊列を組み川下地区、麻里布地区の順にパトロールをし、途中、通行人たちに「『くらしやすい安心・安全なまち』を！」と書いたチラシを配りながら、市民へ安心・安全意識の向上を呼びかけました。

(川下地区のパトロール)



(麻里布地区のパトロール)



(配布チラシ)

『くらしやすい安心・安全なまち』を！

～安心・安全共同パトロール実施中～

私たちは、岩国市に住む全ての人がくらしやすい安心・安全なまちづくりを目指しています。

くらしやすい安心・安全なまちづくりを推進するためには、「自らの地域は自ら守る」という連帯意識のもと、市民の皆さんと行政とが共働して防犯活動を進める必要があります。

こうしたことから、本日、岩国市長をはじめ、山口県、中国四国防衛局及び米海兵隊岩国航空基地が共同して、『安心・安全共同パトロール』を実施しています。この『安心・安全共同パトロール』は、地域に住む人々自らが地域ぐるみで取組を行っていることを対外的にアピールし、防犯意識を向上することが目的です。

本日の『安心・安全共同パトロール』をきっかけとして、市民の皆さん、行政、米軍が、自ら防犯意識を高め、お互いに協力して防犯活動を進めることによって、くらしやすい安心・安全なまちづくりを実現しましょう。



皆さんの御協力をお願いします。

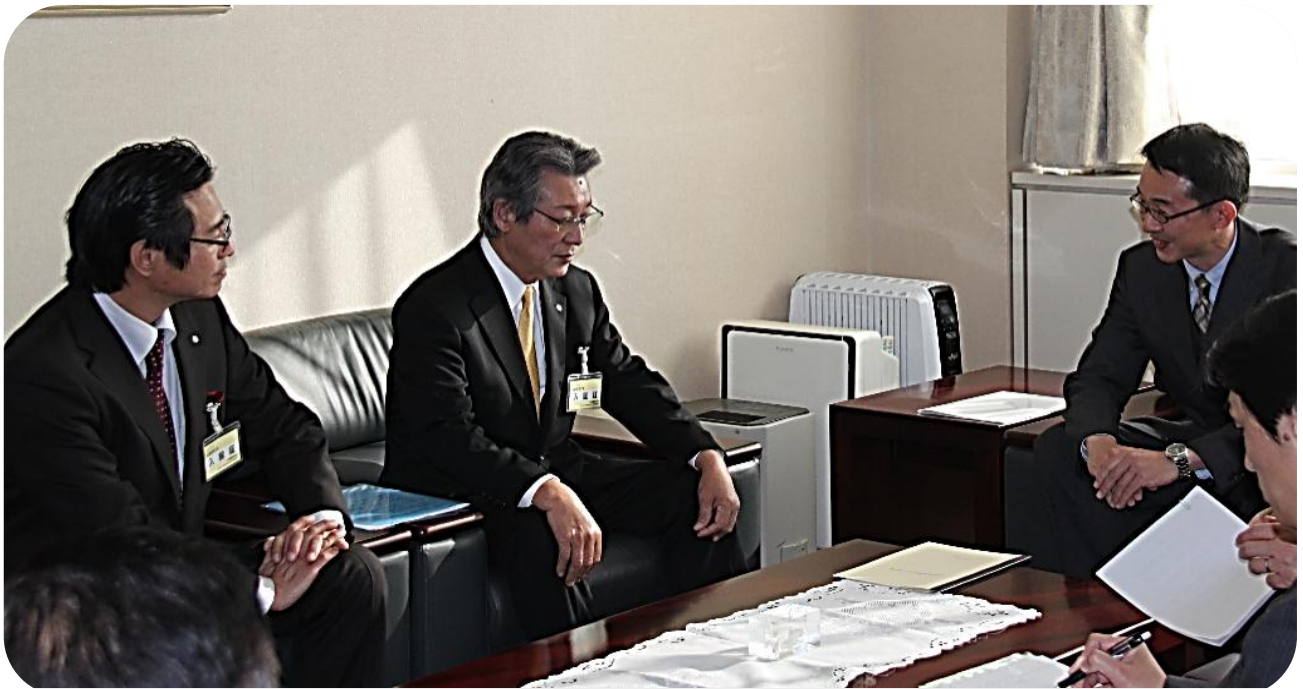
岩国市
(連絡先 岩国市基地政策課 TEL.29-5024)

和木町・周防大島町による安心・安全対策に係る要請書

平成27年1月30日、椎木巧周防大島町長と米本正明和木町長は中国四国防衛局を訪れ、米軍岩国基地に関する要望書を芹澤局長に提出しました。

特に、椎木町長からは、再編交付金事業の拡充に関する要望、米本町長からは、米軍と地域との交流について要望がありました。

これに対し、芹澤局長からは、日頃の岩国飛行場をはじめとする防衛施設の安定的な運用の確保に関して感謝を申し上げるとともに、要望については、しっかりと受け止め、対応したいと応じました。



(要請について説明する椎木周防大島町長(写真中央)と米本和木町長(写真左))



(米本和木町長)



(椎木周防大島町長)



(会見に応じる椎木周防大島町長と米本和木町長)

岩国基地に関する協議会(第10回)

岩国市、山口県及び中国四国防衛局は、平成27年2月4日、米軍岩国基地に係る安心・安全対策等について三者が共同して問題解決を図るため、第10回目となる協議会を岩国市役所で開催し、岩国市から福田良彦市長、山口県から大谷恒雄総務部理事、中国四国防衛局から芹澤清局長らが出席しました。



(協議会風景)

福田市長は、「空母艦載機の移駐時期である2017年が少しずつ近づく中、安心・安全対策についての協議は遅らせることなく、問題解決を図っていく必要がある。まだ解決していない項目については、引き続き、国において誠意を持って取り組んでいただくと同時に、国、県、市の緊密な連携のもと、更なる協議を進めてまいりたい。」と挨拶しました。

芹澤局長は、「防衛施設を安定的に使用するためには、地元の皆様方の御理解と御協力が不可欠である。そのためには、岩国飛行場周辺の皆様が安心して、かつ安全に暮らせる環境を確保することが必要であり、当局としては、これらの安全安心対策について、誠心誠意対応してまいりたい。」と挨拶しました。



(福田岩国市長)



(芹澤中国四国防衛局長)



(大谷山口県総務部理事)

この協議会では、愛宕山用地における施設整備計画、米軍岩国基地に係る安心・安全対策に係る要望、米軍構成員による事件・事故の防止、航空機騒音の状況、航空機の騒音規制措置等の現状や取組について報告され、それぞれについて協議が行われました。



(記者会見)



(記者からの質問に応じる芹澤局長)

愛宕山用地における施設整備計画に伴う説明会

中国四国防衛局は平成27年2月21日、岩国市民会館において愛宕山用地における施設整備計画に伴う説明会を開催し、芹澤局長、伊藤企画部長、福島調達部長らが出席し、また、岩国市からは福田良彦市長らが出席されました。

説明会では、施設整備計画の概要、実施設計の概要（運動施設エリア・家族住宅エリア）、主な施設整備の進捗状況と今後のスケジュールについて説明し、質疑に応じました。

説明会后、芹澤局長から「運動施設に対する市民の期待の大きさを感じた。市民から、使い勝手が良いと言ってもらえるような施設になるよう、市や米側としっかり調整していく。」との発言があり、福田市長からは「運動施設が一日でも早く完成し、市民から、出来て良かったと思ってもらえるよう、しっかり調整していく。」との発言がありました。



芹澤局長



説明会時における中国四国防衛局職員



福田市長



会場の様子

完成予想図



野球場正面全景



コミュニティセンター

自衛隊協力議員連盟に対する防衛講話

自衛隊協力議員連盟に対する防衛講話



芹澤局長挨拶・説明



講話風景

平成27年1月26日、自衛隊協力議員連盟（岩国市議会議員）の要請に応じ、岩国市議会会議室において、同議員連盟（松本久次代表をはじめとする総勢15名の岩国市議会議員）に対して、芹澤中国四国防衛局長が防衛講話を行いました。

当日の講話においては、（Ⅰ）岩国飛行場における米軍再編について【空中給油機KC-130の移駐、岩国飛行場における施設整備の状況、愛宕山用地の運動施設等】及び（Ⅱ）山口県内に所在する3自衛隊について【山口県内主要防衛施設の紹介、陸上自衛隊の災害派遣活動状況説明、海上自衛隊の急患輸送実績・爆発性危険物処理実績等、航空自衛隊の航空学生教育状況等】それぞれ説明を実施しました。

聴講した議員からは、「3自衛隊の活動内容及び防衛行政に対する認識を深める良い機会になった。」との意見が寄せられました。

また一方では、防衛省・自衛隊に対する期待の高さも覗われました。

防衛施設中央審議会委員岩国基地視察



米海兵隊岩国航空基地
司令官表敬等



海上自衛隊第31航空群
司令表敬等



愛宕山敷地造成工事
現場視察

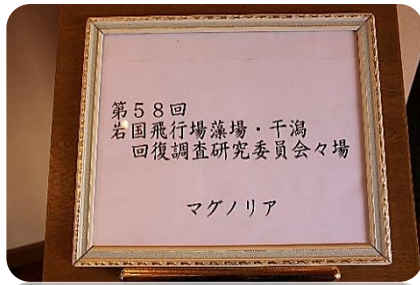
平成27年3月26日～27日にかけて、防衛省大臣官房文書課ご案内の下、防衛施設中央審議会委員総勢5名（福原紀彦会長ほか委員4名）による米海兵隊岩国航空基地視察が実施されました。

26日は、米海兵隊岩国基地司令部において、ブシェー司令官表敬・概況説明を受けた後、海上自衛隊第31航空群司令部に移動、大瀬戸功群司令表敬・概況説明を受け、中国四国防衛局監督官事務所に移動、芹澤局長がKC-130の移駐、空母艦載機の移駐及び米軍再編事業に係る建設工事についてそれぞれ説明を実施しました。

翌27日は、愛宕山において、現在計画中の運動施設等について、当局調達部担当者から今後の建設工事概要等の説明を受けた後、米海兵隊岩国航空基地に移動、基地内の米軍施設・再編関連建設工事現場を視察しました。

一泊二日の強行軍ではありましたが、委員の方々からは「米軍再編事業への認識を新たにする良い機会であった。」とのお言葉をいただきました。

岩国飛行場藻場・干潟回復調査研究委員会



平成27年2月24日、第58回岩国飛行場藻場・干潟回復調査研究委員会を開催しました。同委員会は、岩国飛行場滑走路移設事業に伴い消滅した藻場・干潟について、その回復措置の検討に必要な指導や助言を得るために設置されています。今回の委員会では、周辺藻場・干潟における環境調査結果の報告や来年度の調査計画に関して議論を行い、学識経験者の各委員から指導・助言をいただきました。また、委員による藻場・干潟回復工事の視察を行いました。



(研究委員会風景)



(藻場・干潟回復工事)

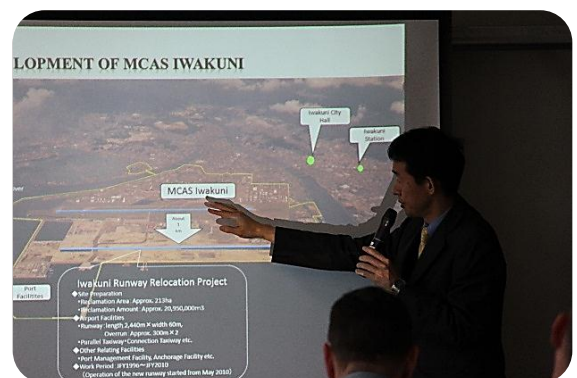
在日米軍オリエンテーション・プログラム

平成27年2月27日、外務省主催の在日米軍オリエンテーション・プログラムの一環として、在日米軍の陸・海・空・海兵隊の現場レベルで指揮にあたる、日本に来て間もない士官クラス20人が、我が国への理解を深めることを目的に、今回初めて地方での開催として中国四国防衛局を訪れました。

芹澤中国四国防衛局長から岩国航空基地における米軍再編及び同基地と地元との関わりについて説明を行い、その後、意見交換を行いました。



(説明を受ける参加者)



(画面を示し説明する芹澤局長)



(会場風景)



(芹澤局長と握手する参加者)

車座ふるさとトーク in 善通寺

左藤章防衛副大臣が善通寺市（会場：偕行社）を訪れ、防災に取り組む地元の人たちと意見交換を行いました。テーマは『巨大地震への備え～自衛隊に期待するもの』でした。

地域の声を政策に反映しようと、大臣、副大臣、政務官が全国各地で行っている『車座ふるさとトーク』で、防衛省では今回が第4回目、四国の香川県での開催は初めてです。

参加者は、自衛隊との信頼関係を強めるために活動に尽力している方々、防災に取り組んでいる地元の方々、学校関係者、自治体職員、自治会関係者、医療関係者等で15名が参加しました。

左藤章防衛副大臣は「善通寺市の皆さんは、非常に防災意識が高く、よく訓練をしたりと色々やっておられるので感心しました。災害が起きた時に被害が少しでも少なくなるように、我々も一生懸命やっていきたい。」と述べました。



(左藤防衛副大臣(写真中央)を中心に
対話する参加者)



偕行社とは…「偕行社」とは明治10年(1877年)に創立された陸軍将校の親睦及び学術研究を目的とする団体の名称です。

この偕行社が社交場として建設した建物にもその名が用いられたため、偕行社という名の建物は代表的な師団が開設された場所、つまり全国的に存在していましたが、現存するものはとても少なくなりました。

明治29年(1896年)善通寺町に開設された第十一師団は、日清戦争後の陸軍拡張期に増設された6師団のうちの一つで、「旧善通寺偕行社」は、第十一師団の将校たちによって明治36年(1903年)5月10日に竣工しました。

竣工年の10月13日には東宮(後の大正天皇)が香川県行啓の際の休憩所としてご利用になり、明治38年(1905年)には土屋中将が日露戦争の戦傷で療養した記録も残っています。

また、大正11年(1922年)にはこの地で実施された陸軍軍事大演習参観のため、皇太子(後の昭和天皇)がご宿泊されています。

戦後はアメリカ軍が進駐し、昭和20年(1945年)12月には米兵・豪州兵の社交場となりました。

※本文は、善通寺市ホームページより引用しました



(参加者全員による記念写真)

中国四国防衛施設地方審議会委員に感謝状を贈呈

平成27年3月24日、村上義則中国四国防衛施設地方審議会委員に芹澤中国四国防衛局長から感謝状を贈呈しました。村上氏は、長きに亘り広島防衛施設地方審議会委員及び中国四国防衛施設地方審議会委員として在任され、防衛施設に関する業務に深い理解を示し、卓越した見識のもと、貴重なご意見をいただき、審議会の発展に大きく貢献されました。



(村上氏(写真右)へ芹澤局長から感謝状を贈呈)



(記念撮影)

平成26年度中国四国防衛局初級係員フォロー研修

平成27年3月12日、局内研修としては初めて、元テレビアナウンサーの外部講師を招いての初級係員フォロー研修を実施しました。

本研修は、入省後1～2年経過した職員33名を対象に、本田祐美講師から「入社3年目までに身につける仕事の基本8ヶ条」と題して、仕事の進め方や上司・同僚とのコミュニケーションなどについて講義していただきました。研修生からは、「実践的な話が多く、理解しやすかった。」、「仕事をしていく上で、忘れかけていた初心を思い出すことができました。今日からすぐ実践します。」、「また、このような研修を受けたい。」などの声が聞かれました。



外部講師
本田 祐美 講師



(講義を受ける研修生)



(記念撮影)



(講師による実演)

中国四国防衛局有志によるマラソン参加



2月1日 第31回サザン・セト大島
ロードレース大会



3月1日 第50回マツダ駅伝大会



1月31日 ひろしま42.195km
リレーマラソン2015

当局の走ることが大好きな職員が参加した各マラソン大会（平成27年1月～3月）です。

各大会では、自分の走力に合わせて距離やペースで走り、脱落者無しで、全ての大会で完走しました。

沿道では、地元の皆様の温かい声援を頂きありがとうございました。



3月8日 第9回錦帯橋ロードレース大会